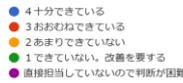


令和6年度 学校評価

学校教育目標『自立して生きる力を育むために主体的に考え動ける人づくり』

『学校経営の重点』

- ①主体的に生きるための人間性や社会性の育成 ②就労に必要な力の育成 ③地域社会に貢献する力の育成 ④自身の命を守る力の育成
- ⑤職業教育を主体とした学校づくりの推進 ⑥教職員の専門性の向上



校務分掌	実践目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価項目(教員)	コメント	成果と今後の課題
開かれた学校	総務部 学校の取り組みを保護者に紹介し、理解・協力を深める	「西神戸だより」の発行。 学校HPで学校行事を紹介する。	「西神戸だより」を年8回以上発行。ホームページを有効活用できたか。			・「西神戸だより」の内容充実を図る。 ・ホームページの有効活用を一層進めていく。
	情報図書部 家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、ブログ等で学校情報の効果的な発信をする。	ホームページの更新及び定期的なブログの掲載ができたか。		・ホームページだけでなく、インスタなど発信するコンテンツを増やしてとも良いと思いました。 ・ホームページが良くなりました。年間、月間行事予定表を掲載してください。確認したい時があります。	・アンケート等を活用して、必要なサービスの充実を図り、定量的に取組の評価ができるようにモニターする。
進路指導	進路指導部 卒業生の就労定着を行うと同時に、定着支援からの様々な気付きを在校生への指導に生かす	在学時から支援機関との連携をはかり、卒業時に関係機関との情報共有を行う。 進路先の訪問、卒業生・保護者と必要時に連絡を取りサポートを行う。定着に関する情報を学校として共有する機会を持つ。	定着支援の中で得た情報を適切に報告し、共有できたか。卒業生の定着状況での気付きを学校での指導に還元できたか。		・在校生への指導が課題かと思われる。	・本人・進路先・就ボツからの情報に対して迅速に対応し、離職や事業所の退所を防げた事例があった。 ・定着支援の中で表面化した事例をまとめ、授業での活用を通すなどして、在校生への意識向上につなげる。
		「自分らしく働く」を実現するための取り組みを進める	生徒・保護者との話し合いを適宜行う。 体験実習を実施する中で、自己理解を深め働くイメージや働く意欲を培う。実態に応じた進路決定をサポートする。	生徒・保護者との話し合い、実習の準備・目標設定・振り返りが進路決定に生かされたか。		・「自分らしく」の捉え方をどう指導に持っていくかが課題と思われる。
危機管理体制の整備	総務部 非常時の避難経路の点検	シューターの点検。 シューターを用いた職員研修。	職員の意識を高めることができたか。		・管理マニュアルの点検・改定及び、事業継続計画(BCP)の作成が必要かと思えます。 ・シューターの課題があることが分かった。	・「危機管理マニュアル」の点検、事業継続計画(BCP)の作成などを通じて、職員の危機管理意識を高めていきたい。
	保健部 環境衛生に取り組み、安心安全な教育環境を整える	生徒保健委員会を活性化させ、生徒も共に主体的に取り組む。	生徒保健委員会と協働し、学校全体でより良い環境作りに取り組めたか。			・生徒保健委員会の仕事の意義を理解し、活動を活性化できた。生徒が環境衛生について理解を深め、生徒保健委員が中心となって行動にうつすことができるようになった。今後は委員が主体的な活動ができるように支援していく体制作りを進め、学校全体で環境作りに取り組みたい。
学校運営	センター的機能 支援研修部 地域と連携を図り、本校のセンター的機能の役割を果たす	地域の学校園及び保護者等と組織的な連携体制を作る。	組織的な連携体制を作り、センター的機能が組織的に活用可能な状態にあるか。		・組織的な連携がはかされていない。地域で支援を必要としている当事者・支援者に支援が届けられていない。 ・センターとして他校との連携活動が課題と思われる。	・ブロック会を通して、神戸市立中学校への情報提供を行うことができた。 ・課題は現在の取組を継続しつつ、本校のセンター的機能について周知を図っていく。
教育	教育課程 教務部 教育課程の編成	学習指導要領に基づく教育課程を生徒の実態に応じて編成する。	教材や地域資源など情報を考慮しながら、次年度の教育課程の編成を行ったか。		・実践目標の教育課程の編成および評価指標に掲げられている文言と達成状況が関連していない。 ・教育課程に関する理解不足 ・教科職業とのバランスが悪い。必要な座学が確保されていない。	・教育計画全体の目標を、授業を通じて地域社会と共有を図っていく。

課程			校務処理の円滑化	校務支援システムを適切に運用し、教務関連作業等の効率化を図る。	校務支援システムをさらに有効に活用できるような機能の運用方法の改善に努めたか。			・学習系データと校務系データとの連携が困難である。 ・必要なシステムを洗い出し、適切な運用につなげることが不可欠である。
	課題	生徒支援	支援研修部	適切な実態把握に基づく指導を行う	チームで実態把握を行い、障害特性に基づいた指導・支援について検討していく。	チームで障害特性を確認し、個別の指導計画の項目に基づいた記載ができたか。		・教員の理解不足
生徒指導				生徒指導部	いじめのない集団への取り組み	アンケートや面談等を行い、いじめの早期発見に努める。いじめ対応チーム会議を定期的かつ臨時に行い、情報の共有を図り、組織的に対応を協議する。	アンケートを行い、その結果を踏まえて面談を行うことができたか。いじめ対応チーム会議を開き情報を共有し、いじめの可能性のある事象への対応ができたか。	
特別活動(生徒指導)		行事、生徒会活動の主体的な取り組み	生徒会執行部が中心となり、また行事によっては実行委員と協力して企画・運営を行う。行事終了後はアンケート等を用いて振り返りを行う。		生徒会の行事や活動を主体的に企画・運営させるとともに、意欲的に参加させることができたか。		・生徒、教員双方への負担軽減が必要と思われる。	・今年度は、生徒会行事を中心に運営、企画することができた。また、スポーツ祭や西神戸祭実行委員会と協力して、行事を運営することができた。課題は、行事や実習、サテライト等で、全員が集まる機会が難しかったので、今後は年間で計画を考えていきたい。
保健教育		保健部	保健教育を通して生徒の健康管理能力を高める	がん教育支援事業モデル校3年目の活動として、全校でがん教育に取り組み、知識の習得から生き方の教育へと繋がる基礎を作る。	がん教育をはじめ、保健教育を通して生徒の健康管理能力を向上させられたか。		・時間数が少ない。 ・がん教育をはじめとする保健教育を教科の中で振り分けていくことを今年度中に教務から発信してほしい。 ・本校生徒の性知識の乏しさに危機感を感じることがあるため、もう少し性教育をやってもいいのではないかと。 ・モデル校終了後の取組が課題である。	がん教育を通じて自分の生き方や共生社会といった視点から保健教育を行うことができた。3年目ということもあり、自分の周りの中での関わりの中で自分ごととして考えることができてきている。継続して取り組む体制作りと教育課程の検討が必要である。
課題	人権教育	人権教育推進委員会	人権意識を高めるための人権教育の推進の土台作りを行う。	授業内容等の検討を行い、各授業と人権教育の繋がりを充実させる。	各教科における人権教育課題の取り組み状況調査を通して、各授業と人権教育の繋がりを確認・検討できたか。		・教科道徳の教育課程への位置付けが必要と思われる。	・今年度に行った取組について、各教科ごとに引継ぎ資料としてまとめることができた。学校評価アンケートでは、生徒・保護者アンケートでは、評価が80%を超えていることから、おおむね出来ているという評価である。しかし、教職員の評価では、18%程の改善が必要という意見もあった。資料の作成に当たり、人権課題についての取扱いや考え、各教科とのつながりについての質問をしたださる先生方が増えてきていることもあり、学校全体で人権課題と各教科との繋がりに関して検討していくことが課題である。
			社会参加活動	SC部	実践的な学習を通して学んだことを活かした進路指導を行う。	実践的な学習後に振り返る機会を設け、個人の課題を明確にする。	作業目標の達成度を作業日誌等で確認できたか。	
	キャリア教育	実態を踏まえた段階表の作成を行う	西神戸版キャリア発達段階表を作成し、活用する。		発達段階表を活用し、授業に生かされたか。		・整理し新しい段階表が作成できたが、活用までにはいたっていない。	・これまで使用してきたキャリア発達段階表を見直し、新たな表を作成した。活用方法は今後検討していく。
	情報教育	情報図書部	これからの時代に即応した情報教育の推進	ICT活用能力を育成し、一人一台端末を活用した学習を可能にする環境作りに取り組む。	一人一台端末を活用した効果的な学習支援ができたか。			・ICT利用状況の調査をもとに課題の発掘や研修内容の検討を行い、時代に即した情報教育の環境づくりに取り組む
			集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、自らの	各授業の中で、目標を意識して取り組み、振り返りの中で自己理解を深める。	学校生活をより良くするための課題を見出し、解決するための話し合いが			・評価者の約20%が「できていない」と評価した。環境を整え、活動を繰り返しても生徒の主体性を

課題教育

学 年	1年	課題を明確にし、自ら考え主体的に行動することができる	話し合い活動を充実させ、合意形成を図り、協働して取り組む機会を設定する。	じさにか。協働を息滅じける活動を設定し、生徒たちが主体となる活動になっていたか。		尚めるこくに主つわかつた。今は場面に応じたスキルを具体的に示すことなどを意識していくことが課題である。
		実践的体験的な学習活動を通して働くことの意義を理解し、職業への興味関心を深め意欲を育てる。また、取り組みや評価を通して自分の能力や適性を知る。	職業自立を目指す学習およびトライやるJOBを通して、自分の適性を捉え、実践を評価・改善し表現する力を養い、コース選択を行う。	作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、自己評価と課題解決に向けた取り組みが行えたか。将来の職業生活を見据え、進路決定の主体として、コース選択ができたか。		・評価者の約20%が「できていない」と評価した。年度末に向かうにつれ、将来へのイメージは持てつつあるが、障害受容を含め、不安が強く、活動への取組に時間がかかっている現状がある。学校の取組に引き合わせる工夫が今度の課題である。
	2年	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ合意形成を進め、仲間と共に協力して実践する。多様な人々と共生する態度を身につける	話し合い活動や、共同作業の場面を設定し、機会を作る。	協働を意識できる活動では、生徒たちが主体となる活動になっていたか。		・昨年度の取り組みや経験を土台にして、ホームルームを中心に総合や道徳の授業など様々な場面で話し合いの機会を持つことができた。一人一人の生徒が主体的に学校生活づくりに参画することをより充実させていくことが課題である。
		職業体験実習及び授業の中で自らの課題や目標を明確にし、「自分らしく」働くことを意識して、専門的な職業能力を高める	職業自立を目指す授業を中心に、段階的に座学や実技指導等の授業を行う。また、職業体験実習での気づきを授業や生活に生かす。	作業日誌や振り返りシートを活用し、課題の発見や課題解決に向けた工夫ができたか。		・コースや、職業体験実習の経験の中で、自分の課題を捉え、目標や目的意識を明確に持ちながら活動に向かえる力が積みあがってきている。日々の学びの振り返りを大切に、生徒が自己理解を進めながら、進路決定の主体者となるよう進路指導を進めていくことが継続的な課題である。
	3年	生活経験の幅を広げ、卒業後の社会生活へスムーズに移行ができることを目指す	校外における体験的な活動や、ボランティア、企業実習、文化・スポーツ行事における成果や結果を積極的に評価していく。集団生活での望ましい人間関係の形成や社会生活上のルールの習得などの社会性、社会の基本的なモラルなどを身につける機会を設ける。	体験活動に意欲的に取り組み、その経験や結果を肯定的に捉えられているか、社会人になると、何がどう変わるのか、自分がどのような意識や態度で仕事に臨むべきなのかを考え、文章にまとめたり実践したりできているか。		・修学旅行や校外学習などにおいて、様々な体験活動を取り入れ、生活経験の幅を広げることができた。さらに、ルールやモラルについて、自分たちで考え、内容をまとめて発表する機会を設けることで、社会性の向上を図ることができた。また、様々な場面での活躍を学年全体で応援・称賛することで、努力や結果を肯定的に捉える姿が見られた。各教科やHR活動などで卒業後の生活をより現実的に考えさせるなど、スムーズな移行を目指した指導ができた。
		職業・社会生活を意識した自己決定力の育成と、主体的に自立した生活を営むことができる力を身につける	各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して主体的に課題解決に取り組む、社会人前基礎スキルを身につける機会を設定する。	作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、正確な自己評価と課題解決が行えたか。		・作業日誌、実習日誌、振り返りシート等を活用し、課題や課題解決に向けた取組を主体的に考えさせることができた。また、座学教科を中心に自立生活に必要な知識・能力をわかりやすい教材を使って示したり、アクティブラーニングを取り入れたりしながら社会人前基礎スキルの習得に向けた指導をすることができた。